

○ “遊々の森” 青森県立三本木高等学校・附属中学校の生徒 によるブナ植樹体験活動

6月9日から12日にかけて、青森県立三本木高等学校・附属中学校の生徒達、約240人が、奥入瀬溪流近隣の幌内山国有林79林班い3小班に設定した「遊々の森」において、ブナの苗木を植樹しました。

今年3月に協定を締結した“遊々の森”は「三本木 夢と生命（いのち）の森」と命名され、今回が初めての林業体験活動となります。

植樹の初日である6月9日（火）にはセレモニーが行われ、長谷川校長からは「10年後や100年後のことを考えて、一生懸命植林してください。」との挨拶があり、続いて田尻署長からは「この場所が森になれば、豊かな水が奥入瀬川から海へ流れ、多くの生命を育む。数十年後の後輩達に活動を伝えていくためにも、大きな森にしよう。」との挨拶がありました。また、生徒を代表して、奈良生徒会長からは「1期生の私たちと一緒に大きく育つように願いながら、環境保護とは何かを考えて植えましょう」と呼びかけました。

続いて、模範植樹が行われ、植樹開始となりましたが、初めて手にする唐鍬に戸惑いながらも、一本一本丁寧に植えていき、最後に記念標柱を建立しました。

植樹活動は10日には2年生、12日には1年生がそれぞれ植樹を行い、約1ヘクタールに3,000本のブナの苗木を植樹しました。



田尻署長の挨拶



奈良生徒会長の挨拶



植樹の様子



協定締結のシンボル